

科目名	国際政治経済学	英文表記	IPE (International Political Economy)		平成24年3月15日				
科目コード	6006								
教員名: 高嶺 司					作成				
対象学科/専攻コース		学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間		
全コース		専2	選択	学修	2単位	講義	後期		
科目目標	過去30年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において「地球規模のスケールをもなった相互接続(Globalization)」が顕著となってきている。本講義では、Globalizationをキーワードに国際政治経済の動向と問題点を、実例や理論を通して深く考察する。								
総合評価	小論文 (50%)、Presentation (20%)、Discussion (30%)で評価する。								
達成度目標と評価方法	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)			達成度目標の評価方法					
	①	国や地域の範囲をこえた政治および経済活動の拡大と活発化、及び、基礎的な国際政治理論について学ぶ。(機械C-1、情報A-1、メディアC-1、生物C-1)			⇒	理解度をDiscussion及び課題で評価する。			
	②	ニュース、商品、情報、資本、技術、文化、感染症などがすばやく全世界を駆けまわる状況とその問題点を学ぶ。(機械C-1、情報A-1、メディアC-1、生物C-1)			⇒	理解度をDiscussion及び課題で評価する。			
	③	共通の社会空間としてのworldの出現とcosmopolitanismについて学ぶ(機械C-1、情報A-1、メディアC-1、生物C-1)			⇒	理解度をDiscussion及び課題で評価する。			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	機械システム工学	情報通信システム工学	メディア情報工学	生物資源工学
	○		◎		JABEEプログラム教育目標	C-1	A-1	C-1	C-1
授業概要、方針、履修上の注意	各講義は原則パワーポイントスライドにより日本語で行う。講義の理解を深めるため、及び受講生の積極的な参加を促すため、講義内容に関連した受講生による簡単なPresentationを実施する。さらに、そのPresentationを基に全体議論(Discussion)のを行う。特定の教科書は使用しないが、必読文献を適時紹介また配布する。								
教科書・教材	1. Alexander Wendt, 'Anarchy is What States Make of It: The Social Construction of Power Politics', International Organization, vol. 46, no. 2, 1992, pp. 391-425. 2. Peter Katzenstein (ed.), The Culture of National Security: Norms and Identity in World Politics, New York: Columbia University Press, 1996. 3. Edward A. Kolodziej, Security and International Relations, Cambridge University Press, 2005. 4. John Baylis, Steve Smith and Patricia Owens (eds.), The Globalization of World Politics, Oxford: Oxford University Press, 2008. 5. Steve Smith, Amelia Hadfield, Tim Dunne (eds.), Foreign policy: Theories, Actors, Cases, Oxford: Oxford University Press, 2008. 6. Samuel Huntington, The Clash of Civilizations and the Remaking of the World Order, New York: Simon & Schuster, 1996. 7. Tsukasa Takamine, Japan's Development Aid to China, London and New York: Routledge, 2006.								
授 業 計 画									
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容				自学自習		
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									

期末	期末試験			
16	はじめに	2	講義概要、評価基準、参考文献の解説	予習とプレゼン
17	日中関係	2	日中関係の基本構図	予習とプレゼン
18	Globalization	2	Globalizationと世界	予習とプレゼン
19	世界経済	2	国際貿易と金融	予習とプレゼン
20	情報通信革命	2	情報通信技術革命と国際政治	予習とプレゼン
21	Regionalism	2	ヨーロッパ連合(EU)の地域統合と地域主義	予習とプレゼン
22	Transnational actors	2	NGO、多国籍企業、国境なき医師団	予習とプレゼン
23	国際政治理論	2	Neo-liberalism, Neo-realism, Social constructivism	予習とプレゼン
24	国際環境問題	2	ポスト京都議定書をめぐる国際環境政治	予習とプレゼン
25	安全保障	2	戦争の歴史と科学	予習とプレゼン
26	国際テロリズム	2	9.11とアルカイダ	予習とプレゼン
27	捕鯨問題	2	調査捕鯨と日本外交	予習とプレゼン
28	貧困と開発	2	貧困、飢餓、開発援助	予習とプレゼン
29	文明の衝突	2	ハンテントンの「文明の衝突論」	予習とプレゼン
30	まとめ	2	Globalizationの今後と私たち	予習とプレゼン
期末	期末試験			
	学習時間合計	30	実時間	22.5
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)
①	各講義の予習			各2時間X15回
②	Presentation			各1時間X15回

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)